

- 大山町香取地区では畜産農家が減少する中、入植して3代目にあたる若い世代が後継者として就農している。
- 経営を次世代に引き継ぐため、若い世代の経営管理能力の向上を目指して、平成27年度より3戸で複式簿記の勉強会を開始した。
- 平成28年度には女性を中心としたグループを結成し、県事業を活用して簿記の勉強会や同業者、異業種への視察研修を実施する中で、経営改善の一つの手法である3S(整理、整頓、清掃)の実践をスタートした。
- その結果、若い世代が主となって簿記記帳を行うとともに、3S活動が作業時間の短縮につながる等、経営管理能力が向上した。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 経営管理能力の向上

- 会員10戸のうち3戸で若い世代(女性)が簿記記帳を主となり実施するようになった。
- 3S活動の実践を主導した若手女性の、家族内での役割が向上している。
- 3S活動の実践を通じて各戸の牛舎環境の改善が進んだ。



年間16時間
作業時間が
短縮



写真 改善前

写真 改善後

- 3S活動の講師を依頼した企業の「3S活動報告会」において活動を報告し、第3位(社外参加団体の部)に入賞した。

2 経営者としての意識改善

- 経営移譲に向けて、家族内での役割分担を明確にするため、家族経営協定の締結(1戸)、見直し(1戸)ができた。
- 経営移譲に向けて、前向きな検討が始まった(2戸)。

3 地域への波及効果

- 県内女性グループや他地区酪農女性部との交流会などを通じて、他地区でも3S活動の実践が始まった。

1 平成27年度

- 複式簿記の勉強会の開催(4回)

2 平成28年度

- 簿記記帳会の開催(14回)
- 県内酪農家簿記グループとの交流会の開催支援(1カ所)
- 視察研修会の開催支援(3カ所)

平成29年度

- 簿記記帳会の開催(8回)と決算整理支援
- 県外の酪農場の視察(2カ所)
- 県内女性組織との交流会の開催支援
- 3S活動の実践に向け、外部の専門講師等による勉強会(9回)及び3S実施企業への視察研修(1回)の開催支援
- 家族経営協定の締結支援、締結内容の見直し支援(2戸)
- 経営移譲に向けた検討会の開催(2戸)



写真 勉強会の様子

普及指導員だからできたこと

- ・多様な情報を持った普及所が3S活動の視察先を紹介し、活動を開始するきっかけとなった。
- ・普及所が広く活動をPRすることにより、他組織との交流会等が開催されている。

若手担い手女性の経営参画支援

活動期間：平成27年～（継続中）

1. 取組の背景

香取地区では畜産農家が減少する中（現在、酪農家9戸1法人、肉用牛農家2戸）、入植して3代目にあたる世代が後継者として就農している農家が7戸ある。経営を次世代に引き継ぐため、若い世代の経営管理能力の向上を目指して平成27年度より3戸で簿記勉強会を開始した。

平成28年度には女性を中心としたグループを結成し（平成29年度末現在会員は6戸、12名）、県の事業を活用して簿記の勉強会や同業者、異業種への視察研修を実施する中で、経営改善の一つの手法である3S（整理、整頓、清掃）に関心を持ち、3Sの実践に向けて動き出した。

女性主導で進める簿記記帳と3S活動による経営改善の実践を通じ、女性の経営参画とスムーズな経営移譲をすすめることを目標として活動を進めた。

2. 活動内容（詳細）

（1）3S活動の実践支援

ア 3Sに関する基礎知識の習得のため、外部の専門講師による勉強会および3S実施企業への視察研修を行った。

イ 取り組みに対する意識づけを目的として、各農場の改善箇所のマップ作りと改善目標の樹立について支援した。

ウ 1S（整理）の実践と効果確認のため、活動報告会の開催支援を行った。また、実施して良かったことをまとめた資料および各戸での1S結果を掲示し、情報共有を図った。

エ 2S（整頓）の実践として、整頓用グッズの作成について支援を行った。



写真1 3S勉強会の様子

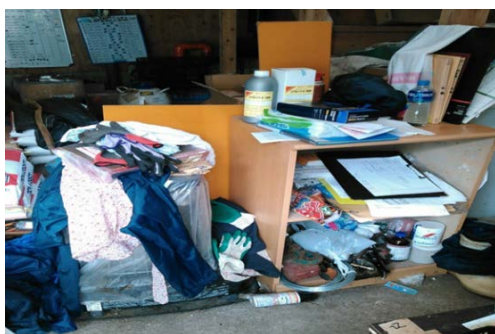


写真2 改善事例（改善前）

年間16時間
作業時間が
短縮



写真3 改善事例（改善後）

- (2) 経営能力向上支援
 - ア 簿記記帳の勉強会を開催した。
- (3) 経営移譲に向けた家族内での役割分担の明確化
 - ア 家族経営協定の締結支援と締結内容の見直しを支援した。
 - イ 経営移譲に向けた検討会を開催した。

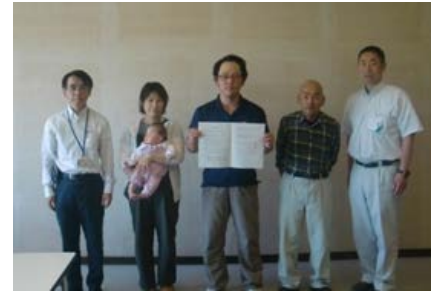


写真4 協定締結式の様子

3. 具体的な成果（詳細）

- (1) 会員10戸のうち3戸で若い世代（女性）が簿記記帳を主となり実施するようになった。また、3S活動の実践を女性が主導して行ったことにより、若手女性の家族内での役割の重要性が高まっている。
- (2) 家族経営協定の締結（1戸）、見直し（1戸）ができた。
- (3) 経営移譲に向けて、前向きな検討が始まった（2戸）。
- (4) 3S活動の講師を依頼した企業の「3S活動報告会」において活動を報告し、第3位（社外参加団体の部）に入賞した。
- (5) 県内女性グループや他地区酪農女性部との交流会などを通じて、他地区でも3S活動の実践が始まった。



写真5 活動報告会での様子



写真6 3S活動報告会での受賞

4. 農家等からの評価・コメント

- ・ 簿記の開始から記帳、整理記入、決算、申告、分析まで実際に体験することで、どのような手順で進めていくか学ぶことができ、今後、親からの経営移譲に向けて、自信につながった。
- ・ 実際に簿記記帳を行い、複式簿記について分かることが増えてきた。経営の数字が分かってきたので、経営者としての自覚とやる気が出てきた。
- ・ 力を入れた3S活動をバタバタとそれでも続けられたのは、ともにがんばる仲間がいて、理解してくれる家族がいたからである。1月には大山地区農業女子会でグループの活動を皆が堂々と発表することができた。メンバーそれぞれが自信をつけて、これからの活動の力になると思う。
- ・ 1S活動から始めて、皆でできたことが非常によかった。定期的に報告会をすることでお互いに刺激し合え、自分にとって予想以上に多くの実践につながった。また、自分がこれからどうすべきか自分の方向性を考えるきっかけにもなった。

5. 普及指導員のコメント（大山普及支所 副主幹 中川翠）

女性を中心に取り組みが進んだ活動であり、その中で経営移譲への検討や経営管理能力の向上等の結果が得られた。これらの活動を通して、グループのメンバーは経営者としての考え方や目標の持ち方、今後の活動の在り方等を考えることができた。また、3S活動の実践を通じて各戸の牛舎環境の改善が進み、取り組んだメンバーの感想がよりわかりやすい情報となり、交流会などを通じて地域内外で他の作目でも広がりを見せている。

6. 現状・今後の展開等

3S活動は作目に関係なく取り組めるので、他組織へもPRしていきたい。今後の課題として、スムーズな経営移譲、3S活動をはじめとする種々の活動の継続といった点が挙げられるが、普及所がけん引するのではなく、農業者が主体的に考え、視察や研修等の取り組みへの支援を続けていきたい。